

授業科目名	教職表現力演習 (2100301)		
時間割名	教職表現力演習 (44102)		
時間割担当	伊崎一夫		
実施期	通年	単位数	1 選択
曜日・時限	木・4		

授業の目標・概要

教育における諸課題について的小論文を書く力を養うことを主な目的とする。「書く力」は、自分の考えを明確にし、適切に伝えるために欠かせない能力である。プレゼンテーションや討議の基礎となるのも「書く力」である。まず、文章の設計図（アウトライン）をもとに 主張 根拠（事例） 結論 の構成で短い文章を書くことについて学ぶ。次いで、教育課題の分析 論の構成 具体策の立案 について学び、教育課題について的小論文の概要を掴む。さらに、論文を書く際の 自己評価の規準（＝論文のモノサシ）を作成し、自らの文章を推敲することができるようにする。

学習の到達目標

- ・ 文章の設計図（アウトライン）を作成し、見通しを持って文章を書く。
- ・ 教育課題の分析 論の構成 具体策の立案 について掴み、教育小論文の概要を知る。
- ・ 自己評価の規準（＝論文のモノサシ）をもとに、自ら推敲しつつ教育小論文を書く

授業方法・形式

1. 授業の課題に応じて文章を書く。さらに、相互評価・自己評価・教員からの評価をもとに文章をより良くする。
2. 必要に応じて、資料やワークシートを用意する。

授業計画

- 第1～2回 「書くこと」のすすめ
（文章の設計図（アウトライン）を設定して書くことの必要性を理解する。）
- 第3～4回 文章の設計図を作ろう
（文章の設計図（アウトライン）を作成して書く。）
- 第5～6回 文章クリニック（1）
（長文や主述のねじれ、論の飛躍等、陥りやすい問題点を知り、修正する。）
- 第7～8回 教育課題を分析しよう
（教育小論文の課題を読み、自分の「述べたいこと」を明確に定義する。）
- 第9～10回 論の構成について学ぼう
（教育課題について自分の主張を述べるために必要な論の構成についてとらえる。）
- 第11～12回 根拠のある主張をしよう
（自分の主張をどのように根拠づけていくか、具体的な手法について学ぶ。）
- 第13～15回 具体策を立案しよう
（教育課題について、具体的な解決策を持つための手立てを学ぶ。）
- 第16～17回 論文のモノサシ を作ろう（1）
（学んだことをもとに小論文を書く際の自己評価の規準（＝論文のモノサシ）を作成する。）
- 第18～19回 教育小論文の設計図を作ろう
（具体的な教育課題について、文章の設計図（＝アウトライン）を作成する。）
- 第20～21回 教育小論文を書こう（1）
（第18～19回で作成した文章の設計図をもとにして、教育小論文を書く。）
- 第22～23回 文章クリニック（2）
（第16～17回で作成した自己評価の規準（＝論文のモノサシ）を手がかりに自分の書いた小論文を推敲する。）
- 第24～25回 教育小論文を書こう（2）
（アウトラインの作成から教育小論文執筆までを自力で行う。）
- 第26～27回 教育小論文の批評会を開こう
（互いの教育小論文を読み、お互いの考えを交流する。）
- 第28～29回 論文のモノサシ を作ろう
（後輩が参考にすることを想定して自己評価の規準（＝論文のモノサシ）を作成する。）
- 第30回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

成績評価の基準

毎回の授業中に書くワークシートや小論文を中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。（30%）さらに、自分の文章をどのように見直し、推敲したかを評価する。（30%）教育小論文を学期末に提出し、総合的な文章力を確認する。（40%）

準備学習・復習及び授

1. 各講義における課題をシラバスで理解する。
2. 現代教育課題に関心を持ち、関連する書籍や新聞記事を継続して読む。
3. 教育上の諸課題に関連する自らの体験（小・中・高での体験やボランティア、実習等）について文章でまとめておく。

履修上のアドバイス及

授業で、文章を書く時には、集中して取り組む。各時間の課題等については、確実に提出する。なお、資料の予備配付は行わないため、欠席の場合は各自で対応する。

教材・教科書

必要に応じて資料等を配布する。

参考書

「大学生のための日本語表現実践ノート（風間書房）」

「大人のための国語ゼミ」（山川出版社）」